

ぶらり

奥州散歩道

Vol. 31

一いっ首しゅ坂ざか
(衣川区古戸)



①義家と貞任が、歌を詠みあつたと伝えられている一首坂。義家（左手前）と貞任（中央奥）を示す岩が置かれている②衣川中の生徒ら多くの住民ボランティアが参加して整備された遊歩道。地区住民の思いが込められている



③『一首坂とこだわり衣川史』（A5判72頁）は、衣川地区振興会が制作した冊子。希望者は同振興会にお問い合わせを

—— 一首坂の地名は、中世の前九年の合戦に由来します。坂と言っても現在は木々が茂る山の尾根ですが、当時この場所が、敵味方に分かれた2人の武将が、歌を詠みあつたことからと伝えられています。

11世紀半ばの前九年の合戦は、中央政府から派遣された源頼義・義家父子が、衣川を本拠とした豪族・安倍氏を滅ぼした戦いといわれています。安倍氏は、10世紀中ごろから奥六郡（現在の衣川から盛岡までに置かれた6つの郡の総称）の郡司としてこの地を治めます。やがて、中央の出先機関である胆沢鎮守府をも支配するほどになりますが、この合戦で頼義父子と出羽の清原氏連合軍に敗れます。

さて、そこでこの坂が歴史の舞台に登場します。衣川で敗れた安倍軍総大将の安倍貞任は、厨川柵で態勢を立て直そうと、

馬に乗って坂を駆け上がります。そこを義家が追い、馬上から弓を構えつつ「衣の館はほころびにけり」と歌を詠み掛けました。貞任はすぐに馬のくつわを返し「年を経し糸の乱れの苦しさに」と上の句を継ぎました。義家は、負け戦でも平静を失わない貞任に感じ入り、見逃したといわれています。

安倍氏の血は、後の奥州藤原氏につながっていきますが、この一首坂の歴史も今、地域の人たちによって受け継がれようとしています。衣川地区振興会（佐藤利男会長）が中心となり、会員、中学生らがボランティアで遊歩道を整備。今後歴史教育の場としての活用も計画されています。平泉の前史を飾る武将たちが躍動した舞台を、ゆっくりと散策してみませんか。

◇お問い合わせ 衣川地区センター（☎3426）へ



新築・リフォーム
住宅に関するご相談は
お気軽に。

家族を守る、激震に耐える強い家

震度7に耐える丈夫な家が、あなたの家族と財産を守ります。

丈夫で長持ち

信頼の施工・品質

松下電工の住宅工法
テクノストラクチャー
全棟構造計算書付！

木造住宅の常識を超える「新工法」。

木の温もりと鉄骨の強さを併せ持つオリジナル複合梁と接合金具を使用し、邸別に構造計算を行うことで、いつまでも安全で安心できる家を提供いたします。

高惣建設株式会社 〒023-0829 奥州市水沢区花園町一丁目1番7号
TEL:0197-22-3111 FAX:0197-22-3120

お問合せ
ご相談は

0120-516-812
<http://www.takasou.net/>